

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 羽幌地域生物多様性保全協議会

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再生エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 【羽幌町の人口】現在：6,333人(2023年)、将来：5,341人(2030年)、3,646人(2045年)（羽幌町/日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)）
- 【留萌管内の人口】現在：43,657人(2021年)、将来：33,215人(2030年)、21,173人(2045年)（日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)）
- 羽幌町の環境を守る基本計画(2017年)：
 

未来の子どもたちに引き継ぐことのできる「豊かで質の高い環境(=羽幌町のめざす環境)」の確保のために、住民・事業者、観光客、町が連携して各々の役割を果たす。シーバードフレンドリー(SBF)事業は、本計画で位置付けられている。

②具体的な取組

【SBF推進協議会の事業】

- 海鳥を取り巻く環境保全と両立した「地域事業者の商品開発や販売支援」事業
- 消費者と留萌地域の自然や事業者をつなげる「関係人口の構築」事業
- 海鳥を通じて行う生物多様性保全等の「留萌地域の環境・地域学習」の展開

【具体的に取り組んでいくこと（担い手）】

- 「地域事業者の商品開発や販売支援」事業
 

海鳥学習のアップデート、海鳥・環境保全の勉強会や事業者交流会、マルシェ等イベントの開催、商品開発・販売支援策の具体化に向けた金融機関との調整・連携、SBF農業・漁業認証の運用と食品加工業・酪農業への対応

(SBF推進協議会：北海道海鳥センター、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、管内をまたがる観光業団体：(株)コササル、金融機関、管内をまたがる一次産業団体)
- 「関係人口の構築」事業
 

2023年度羽幌町ガバメントクラウドファンディング(GCF)、GCF寄付者向けの現地ツアー、地域内外の子供向け農泊ツアー、地域外応援者の支援メニューの拡大、情報発信方策(SNS、ポータルサイト等)

(SBF推進協議会：(株)コササル、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者)
- 「留萌地域の環境・地域学習」の展開
 

羽幌高校との環境学習、SBF参加事業者による講話、子ども向け海鳥イベント、事業者と子どもが一緒に参加する環境活動

(SBF推進協議会：北海道海鳥センター、羽幌高校、地域の環境団体・地域づくり団体・アウトドア団体、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、海鳥について学んだ事業者)

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

○「**環境保全**」が「**地域振興**」になる地域へ

→ 留萌地域が「海鳥を通して、生物多様性や脱炭素などの環境保全をリードする地域」としてブランディングされる。

・地域内外の多くの人々が多様なかたちで環境保全に参加する。【環境教育】【関係人口】  
 地域の人々の日常生活や様々な活動、文化のなかに環境保全が組み込まれ、環境にやさしい取り組みに“楽しみながら”や“意識せずとも”、人々が参加している。  
 海鳥が留萌地域のシンボルとして認識され、地域の人々が日々の生活の中で海鳥を見守っている。  
 地域の人々が、自然環境の保全や地域振興のために「何ができるか」を知りたいとき、SBFが窓口となって教えてもらえる。

・環境にやさしい事業が持続的に発展していく。【事業者支援】【関係人口】  
 事業者が環境保全に取り組むことで、抱えている課題の解決や新しいやりがいの創出ができ、さらなる挑戦ができる。  
 環境にやさしい持続的な事業の商品を選択的に購入する消費者（＝グリーンコンシューマー）が地域内外にたくさんおり、SBF認証の商品・サービスが評価されている。

・地域内外の人々の交流が活発に行われ、地域の活性化につながるうごきがどんどん起こっていく。【事業者支援】【環境教育】【関係人口】  
 例えば地域の人々が活躍できる場を見出したり、人々がより留萌地域の魅力を実感したり、新しいビジネスが創出される。

→ ・環境保全の取り組みが持続的に推進され、地域に生息する海鳥やその他の生物が豊かにくらしている。【事業者支援】【環境教育】【関係人口】  
 現状把握し、データに基づいて事業が設計・実施されるように、必要な情報収集・モニタリングを行っている。  
 例えば海鳥の生息状況から保全事業やゾーニング方法の整備を行う。

※SBF認証は、地域の事業者が環境保全に参加するためのガイドラインにもなる取り組みの1つとして活用される

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	実績値	単位
				(2023年度末)	(2022年度末)	
環境	SBF認証の状況	認証取得候補の事業者数	4	7	4	件
	環境活動の取組状況	イベント開催(共催や参加も含め)数	5	7	5	回
		海鳥学習への参加事業者数	—	10		団体
経済	寄付による地域への還元	GCF寄付者との交流回数	1	2	1	回
		CFの寄付者数	216	250	216	人
	事業者の取組状況	SBF認証マークのついた商品数	1	7	1	商品
		マルシェへの参加事業者数	—	3		団体
社会	関係人口・応援人口	管内のSBFの応援・賛同者数	25	50	25	件
		地域外応援者のサポートメニュー	0	1	0	件
	事業者交流会への参加団体数	8	15	8	団体	
	SBFのSNSのフォロワー数	83	100	83	人	
	環境教育の状況	環境学習を行うクラス数	2	4	2	クラス

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値	目標年度	目標値	単位
				(2023年度末)	2030-2050年度		
環境	地域の取組状況	SBF認証を取得している事業者数	—	—	2030	50	件
		【漁業】海鳥混獲防止事業に参加する人数	3	—	2030	15	人
		海鳥学習を受けた事業者数	—	—	2050	100	団体
	環境活動の状況	環境関連のイベント(共催や参加も含め)回数	—	—	2030	300	回/年
海鳥のモニタリング者数		—	—	2030	25	人	
経済	財源	寄付で集まる活動資金	380	380	2030	500	万円
		事業者の取組	SBF認証マークのついた商品数	1	7	2030	60
		SBF商品やサービスの開発数	—	—	2030	10	個
	人材・雇用	ツアー・イベントのプログラム実施数	—	—	2030	30	回/年
	SBFをきっかけに来る移住者数	—	—	2030	20	人	
	SBFの専従職員	—	—	2030	1	人	
社会	関係人口・応援人口	プラットフォーム参加団体数	20	30	2030	100	団体
		サポーター登録数	—	—	2030	300	件
		援農・援漁のボランティア等の人数	—	—	2030	160	人
	地域の取組状況	SBF商品を使う学校・飲食店	0	0	2030	20	件
環境教育の状況	海鳥を通して環境教育を行う高校	1	1	2030	6	校	

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

留萌地域の海鳥を取り巻く自然環境の保全に地域内外の多くの人々が参加することで地域が活性化するために、短期的には参加間口の整備、長期的には多くの人々が多様な間口から環境保全に取り組めることを目指していく。

これからのSBF推進協議会には「海鳥の知識と思い」を共有した事業者や個人が参加し、環境活動や産業振興、人材育成などの取り組みを主体的に行っていく。短期目標は、「海鳥の知識と思い」を共有して環境保全や産業振興、人材育成などの取り組みを一緒に行っていく地域の事業者や個人を増やす目標である。事務局（北海道海鳥センター）が取り組むだけでなく、様々な主体が活動の中心となり、協議会の具体的な3つの事業（【事業者支援】【関係人口の構築】【環境教育】）を進めていく。【事業者支援】により海鳥と自分の仕事を一緒に語れる地域事業者が増えて地域住民に認知される、【関係人口の構築】により地域外からの応援が増える、【環境教育】により海鳥等の地域の豊かな自然や環境保全にも取り組む地域産業に関心を持つ地域人材が増えることで、長期的には環境保全の取り組みを地域の人々の生活やイベント、ビジネスに浸透させ、人も海鳥も豊かにくらせる地域にしていく。長期目標は、留萌地域の自然環境保全への参加メニューとして実現させたい目標である。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください